

公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成29年3月1日

施設名	高知県立埋蔵文化財センター	所管課	教育委員会文化財課
-----	---------------	-----	-----------

1 施設の概要

指定管理者名	(公財)高知県文化財団	指定期間	平成25年4月1日～平成30年3月31日
施設所在地	南国市篠原1437-1		
事業内容	○施設管理(埋蔵文化財保護の中核施設として最適な施設管理を行う) ○出土文化財等資料管理(出土遺物を適切に保管・管理し県内外からの依頼に応じて貸出等を行う) ○広報普及(発掘調査成果及び出土文化財を広く県民に公開することにより埋蔵文化財に対する保護の推進と普及啓発を図る)		
施設内容	面積:本館(1,038.68㎡) 北館(518.40㎡) 南館(1,045.92㎡) 収蔵庫(1,527.52㎡) 開館時間:午前9時～午後5時まで 休館日:土・日・祝祭日、12月29日～1月3日 (巡回展の期間中、公開講座等開催日は開館) 利用料金:無料		
職員体制	常勤職員:5名		

2 収支の状況

単位:千円

		平成26年度(決算)	平成27年度(決算)	平成28年度(予算)
収入	県支出金	42,135	45,595	47,999
	補助金等収入	953(助成金500を含む)	1,260	0
	その他	0	1,059	39
	収入計 (a)	43,088	47,914	48,038
支出	事業費	5,881	5,588	7,374
	管理運営費	15,033	15,191	15,214
	人件費	22,174	27,135	25,450
	その他	0	0	0
	支出計 (b)	43,088	47,914	48,038
収支差額 (a)-(b)		0	0	0

3 利用状況

	平成26年度(実績)	平成27年度(実績)	平成28年度(目標)
①年間利用者数(単位:人)	3,120	4,040	3,700
②利用者意見等の反映	○ 利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等) 展示公開(遺跡から出土した土器類の展示や展示解説板による説明)や親子考古学教室等での来館者に対してアンケートを実施し、意見や感想の収集とニーズの把握に努めた。		
	○ 利用者意見等を踏まえた対策 講座内容の充実や資料作りを行なう際にアンケート結果を参考とした。一例として、出前考古学教室では実物の土器について、実見や実際に触れる等の機会をなるべく多くすることに努めた。		
	○ その他 [以下は、アンケート回答の一部] ・高知の縄文の歴史や弥生の遺跡などを多く知ることができ、特に田村遺跡と居徳遺跡の対比が興味深かった。(「授業に活かせる考古学教室」) ・気軽に立ち寄れる場所での開催が良かった。(「イオンワークショップ」) ・ひとつひとつしっかりと教えてもらったので楽しんで作れた。また、いろいろな講座に参加したい。(「古代ものづくり体験教室」) ・埋蔵文化財に初めて興味がわきました。昔のを知ることは楽しい。(「親子考古学教室」) ・毎年1年間の授業のなかで印象深い経験ができ、生徒が良く覚えている授業です。(「出前考古学教室」) ・縄文、弥生時代のことや土器の見分け方が良く分かり説明も丁寧で満足。(「展示品解説」)		
③その他特記事項			

4 平成 27 年度業務評価

項 目	状 況 説 明
①適正な管理運営の確保	○協定書、事業計画書の内容に従って概ね適正な管理が行われた。 ○事故発生はなかったが、万一の時のために消防訓練等を実施し利用者の安全確保に努めた。
②利用者サービスの維持向上	○年間行事カレンダーの作成やホームページで情報発信するとともに、講座への参加経験者に事業案内を送付する等で利用者数の確保に努めた。 ○公開講座等については、「見てもらう展示」に心がけた内容に努めていた。 ○キッズコーナーの設置により若年層への関心を高めることに努めた。 ○職員の研修会を開催し情報共有や知識の研鑽に努め、利用者に対して十分な説明ができるように努めた。
③利用実績	○出前考古学教室等で積極的に館外に出向き、県内85校(3,052人)を対象に「地域の遺跡」に関する授業と体験学習を行った。 ○地道な広報活動をはじめとする日常的・積極的な普及推進と、親子考古学教室、埋文センターへの親しみと業務に対する理解を深めてもらうため初めて実施した“まいぶんまつり”で入館者が大幅に増加した。
④収支の状況	○県からの指定管理代行料に加え外部資金を活用するとともに、経費の節減に努めつつ適正な支出が行なわれている。
総合評価	A ○これまでの地道な活動や新たな事業を展開することで大幅な入館者増につながった。 ○出前考古学教室は好評である。 ○マスコットキャラクターを活用した事業展開により親しみやすさと、各種企画展や公開講座等の実施により知名度アップと考古学への関心の高まりに努めている。 ○利用者サービスや施設管理については概ね適正にできている。 ○埋蔵文化財保護の中核施設づくりを目指す一方、埋蔵文化財に対する理解や利用者数を確保するため外部で地域展等を開催し、県民に出土遺物等の実物に触れる機会や講座の開催等に努めている。

- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
 B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
 C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
 D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの

【評価の目安】